



KYOTO INDUSTRIAL ASSOCIATION

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—
京都からモノづくりイノベーション

令和 8 (2026) 年 7 月

No.427

京都工業会ニュース

VISION

新体制で事業展開をスタート



上田 輝久 新会長
(株式会社島津製作所 会長)

INTERVIEW

会員企業トップにインタビュー 〈45〉 ～モノづくりへの想いを聴く～

株式会社寺内製作所

代表取締役社長

植月 邦彦 氏



CONTENTS

VISION

新役員体制始動

FEATURE

秋季事業のご案内

INTERVIEW

会員企業
トップインタビュー

REPORT

令和 8 年度成果報告

INTRODUCTION

課題解決の糸口に



京都市産業技術研究所

▶特集

- 02 通常総会開催
03 役付役員名簿
04-06 就任退任ご挨拶
07 優秀従業員定例表彰

▶トピックス

- 08-09 事業予告
10 トップインタビュー
11-12 活動報告

▶お知らせ

- 13 その課題、相談できます！
14 本会関係者のご受賞、
ご訃報、KIG日より、
新入会員紹介

6/10

第58回 通常総会を開催

第58回通常総会及び令和8年度優秀従業員定例表彰をホテルオークラ京都にて開催した。(※表彰受賞者一覧は7頁に掲載)



総会冒頭、村尾 修会長が開会挨拶を行った後、議長に選任され議事に入った。

当日の議案は次の通り。

- 第1号議案：第58期事業報告及び決算の承認の件
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)
第2号議案：役員の任期満了に伴う改選の件
第3号議案：常勤の理事の年間報酬総額決定の件
報告事項：第59期事業計画及び収支予算の報告の件

第1号議案は、まず本永専務理事が事業報告全般及び収支決算について説明を行った後、8つの委員会の各委員長から担当事業について報告が行われた。(総務：太田 克己氏、企画：照屋 倫生氏、技術・教育：洲崎 智之氏、中堅企業：堀 英二郎氏、中小企業：瀬川 晋弘氏、環境：三ツ松 昭彦氏、安全衛生：島田 清孝氏、広報：武田 旬平氏)。

その後、監事4名を代表して佐藤博文監事から会計監査の報告がなされ、全員異議なく原案通り承認された。

第2号議案については、5月に開催した第354回理事会での審議結果を理事会推薦案として提案。事務局がその案を読み上げ諮ったところ、全員異議なく承認された。

第3号議案の常勤の理事の年間報酬総額決定について専務理事が説明を行い、全員異議なく承認され、全議案の審議は滞りなく終了した。

最後に報告事項として、第59期事業計画及び収支予算(令和8年4月1日～令和9年3月31日)について専務

理事が説明を行い、以上で総会の議事は全て終了した。

続いて役付理事選定理事会を開催し、正副会長をはじめとする役付理事選定を審議。全員意義なく承認された。

- | | | |
|-------|----------------------------------|----|
| 会 長 | 上田 輝久 (株)島津製作所 会長) | 新任 |
| 副 会 長 | 武田 一平 (ニ チ コ ン (株) 会長) | 再任 |
| 副 会 長 | 山田 義仁 (オ ム ロ ン (株) 会長) | 再任 |
| 副 会 長 | 廣江 敏朗
(株)SCREENホールディングス 会長) | 再任 |
| 副 会 長 | 西村 陽 (日 新 電 機 (株) 社長) | 再任 |
| 副 会 長 | 阿部 貴志
(株)ジーエス・ユアサコーポレーション 社長) | 新任 |
| 副 会 長 | 瀬川 晋弘 (旭 光 精 工 (株) 社長) | 再任 |
| 副 会 長 | 材木 正己 (日 東 精 工 (株) 会長) | 再任 |
| 副 会 長 | 増山 晃章 (星 和 電 機 (株) 会長) | 新任 |
| 専務理事 | 本永 治彦 | 再任 |

常任理事 29名、理事 29名、監事 5名

(新役員名簿は3頁に掲載)

総会終了後、令和8年度優秀従業員定例表彰を挙行し、続いて懇親会を開催。冒頭、上田会長が開会挨拶を行い、来賓を代表して文化庁審議官 松坂 浩史氏、近畿経済産業局産業部部長 谷原 秀昭氏、京都府副知事 鈴木 一弥氏、京都市副市長 岡田 憲和氏から祝辞をいただいた。続いて来賓紹介、祝電披露の後、西村副会長の乾杯発声で賑やかに開宴した。

その後は和やかに歓談し、材木副会長の閉会挨拶をもって盛況裡に懇親会を終えた。



上田新会長から村尾前会長へ
花束贈呈



挨拶
村尾 修 会長



祝辞
松坂 浩史 文化庁審議官



祝辞
谷原 秀昭 近畿経済産業局産業部部長



祝辞
鈴木 一弥 京都府副知事



祝辞
岡田 憲和 京都市副市長

令和8・9年度 公益社団法人 京都工業会
役 付 役 員 名 簿

※印＝新任、☆印＝外部理事・外部監事（令和7年公益法人制度改革により、設置が義務付けられました。）

（令和8年6月10日 敬称略）

工業会役職	氏 名	会社名	会社役職	工業会役職	氏 名	会社名	会社役職
会 長 ※	上 田 輝 久	(株)島津製作所	会 長	理 事	上野山 寛 次	上野山機工(株)	社 長
副 会 長	武 田 一 平	ニチコン(株)	会 長		大 蔵 浩 二	(株)トミナガ	社 長
	山 田 義 仁	オムロン(株)	会 長		尾 崎 至 弘	丹後機械工業(協)	理事長
	廣 江 敏 朗	(株)SCREENホールディングス	会 長		川 口 剛 史	(株)日本ジョイント	社 長
	西 村 陽	日新電機(株)	社 長		小 林 剛 一	日本電気化学(株)	社 長
※	阿 部 貴 志	(株)ゾーエス・エアサコーポレーション	社 長		里 村 和 樹	宇治電器工業(株)	社 長
	瀬 川 晋 弘	旭光精工(株)	社 長		島 田 理 史	(株)菊水製作所	社 長
	材 木 正 己	日東精工(株)	会長兼CEO		嶋 田 達 也	日本たばこ産業(株)関西工場	工場長
※	増 山 晃 章	星和電機(株)	会 長		須 河 進 一	須河車体(株)	社 長
専務理事	本 永 治 彦	(公社)京都工業会	専務理事		洲 崎 章 弘	京都府鋳物工業(協)	代表理事
常任理事	足 立 正 之	(株)堀場製作所	社 長		鈴 木 順 也	NISSHA(株)	社長兼CEO
※	伊 吹 和 彦	京都機械工具(株)	社 長	※	鈴 木 康 仁	大日本印刷(株) Lifeデザイン事業部	管掌
	今 西 哲 雄	太平工業(株)	社 長		高 見 哲 夫	(株)松 風	社 長
	尾 池 均	尾池工業(株)	社 長	※	橘 木 晴 久	関西電力(株) 総務室	総務部長
	大 倉 治 彦	月桂冠(株)	社 長		中 村 道 一	NKE(株)	社 長
	大 下 実	(株)インダ	常務取締役		中 本 宏 樹	福知山重工業(株)	社 長
	岡 田 博 和	TOWA(株)	会 長		奈 良 正	サンコール(株)	社 長
	小 倉 勇	(株)たけびし	会 長		西 岡 誠 司	(公社)京都工業会 理事・事務局長	
	檜 藤 達 郎	(株)カシフジ	社 長		錦 織 晃	(株)日進製作所グループ	社 長
	門 脇 あつ子	大阪ガス(株) 執行役員 京都地区統括支配人			橋 本 進	(株)京都製作所	会長兼CEO
	木 村 睦	宝ホールディングス(株)	社 長		藤 永 清 恵	(株)森川製作所	社 長
	佐 口 敏 康	ゲンゼ(株)	社 長	※☆	丸 中 良 典	(一財)京都工場保健会	会 長
	鈴 木 三 朗	(株)最上インクス	相談役		水 主 吉 彦	太陽機械工業(株)	社 長
	砂 崎 達 哉	(株)砂崎製作所	社 長	※	山 田 孝	(協)京都府金属プレス工業会	副理事長
	園 田 修 三	福田金属箔粉工業(株)	会 長		山 中 泰 宏	旭金属工業(株)	顧 問
	竹ノ内 壯太郎	三和研磨工業(株)	社 長		吉 田 典 生	三和化工(株)	会 長
	田 中 博	(株)モリタ製作所	社 長	※☆	吉 本 昌 広	(大) 京都工芸繊維大学	学 長
	塚 本 能 交	(株)ワコールホールディングス	名誉会長	監 事	佐 藤 博 文	エンゼル工業(株)	会 長
	津 田 幸 平	津田電線(株)	会 長		澤 田 守 成	(株)パックス・サワダ	会 長
	中 島 規 巨	(株)村田製作所	社 長	※☆	志 賀 紀 之	京都中央信用金庫	常務理事
	堀 英二郎	(株)ホリゾン	会 長	※☆	西 村 永 良	西村証券(株)	社 長
	前 川 重 信	日本新薬(株)	会 長		牧 野 稔	サンエー電機(株)	社 長
※	間 野 裕 一	(株)ロジスネクスト	社 長	工業会役職	氏 名	会社名	会社役職
	村 田 大 介	村田機械(株)	社 長	顧 問	田 中 千 秋	元 日本電池(株)	元会長
	森 下 善 史	三菱自動車工業(株)京都製作所	所 長		服 部 重 彦	(株)島津製作所	元会長
	山 岡 靖 尚	(株)山岡製作所	社 長		依 田 誠	(株)ゾーエス・エアサコーポレーション	元会長
	山 口 悟 郎	京セラ(株)	会 長		中 本 晃	(株)島津製作所	前会長
	山 口 進	(株)川島織物セルコン	会 長	※	村 尾 修	(株)ゾーエス・エアサコーポレーション	会 長
※	山 路 直 貴	第一工業製薬(株)	社 長	参 与	垣 内 永 次	(株)SCREENホールディングス	特別顧問
理 事	安 藤 源 行	(協)日新電機協力会	顧 問		松 下 芳 弘	日新電機(株)	取締役
	今 岡 俊 成	朝日レントゲン工業(株)	社 長		錦 織 隆	(株)日進製作所グループ	特別顧問

会長就任ご挨拶

会長 上田 輝久



6月10日に開催された通常総会及び理事会におきまして、皆様のご推挙を賜り、この度、京都工業会の会長を拝命いたしました。

1957年（昭和32年）の設立以来、長い歴史と輝かしい伝統を有する京都工業会の会長という重責を担うこととなり、誠に光栄に存じますとともに、その使命の大きさに身の引き締まる思いであります。これまで京都工業会の発展にご尽力いただいた歴代会長をはじめ諸先輩方に深く敬意を表しますとともに、その志を受け継ぎながら、8名の副会長の方々と役員の皆様、そして会員企業の皆様と、京都工業会のさらなる発展と京都産業界の振興のために、誠心誠意取り組んでまいる所存ですので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私たちを取り巻く社会・経済環境は、これまでにないスピードで大きな変化の時代を迎えております。地政学的リスクの高まり、急速なデジタル化やAI技術の進展、エネルギー・資源価格の変動、気候変動への対応など、企業経営を取り巻く課題はますます複雑化しており、これまで以上の柔軟性と果敢な変革が求められています。日本では少子高齢化や労働力不足が深刻化し、持続可能な社会の実現に向けた新たな挑戦が必要となっています。このような大きな変化の時代だからこそ、京都のものづくり企業が持つ強みが一層重要になると考えております。

京都には、長い歴史の中で育まれた伝統産業の技術と精神を礎に、独創的な技術や製品を生み出し続けてきた企業群があります。これまで京都の企業は、「他社の真似をしない」「独自の価値を創造する」という精神を受け継ぎながら、多くの困難を乗り越え、新たな市場や産業を切り拓いてきました。一方、京都には世界有数の大学や研究機関、多彩な文化、豊かな人的資源が集積し、新しい発想で社会課題の解決に挑むスタートアップも数多く存在しています。これらが持つ知識、技術、人財をつなぎ、新たな価値を生み出す場として

の役割を強化していくことで、京都工業会の価値をさらに高めていきたいと考えています。

京都工業会は設立以来、「技術力の向上」と「人財の育成」を活動の基本理念としてまいりました。この基本理念は今後も決して変わることはありません。今後の重点的なテーマとして、次世代を担う人財の育成、AI・DXの活用による競争力強化、カーボンニュートラルやGXの推進、医療・ヘルスケアをはじめとする社会課題解決型事業の創出、スタートアップとの共創による新産業の育成、産学公連携によるイノベーション創出などに取り組み、会員企業の皆様の変革と発展に貢献してまいります。

また、京都工業会を単なる情報交換の場ではなく、企業の規模や業種を超えて会員企業が互いに学び合い、支え合い、共に成長できるコミュニティへとさらに進化させていきたいと考えています。国際社会が大きく変化する中、将来予測が困難な時代を迎え、一社だけでは解決できない課題も増えています。京都工業会がハブとなり、企業、大学、研究機関、行政をつなぎながら「伝統と革新の融合」により、新たな時代を切り拓くようなイノベーションを生み出し続けるエコシステムの形成を目指してまいります。そして2030年代に向けて、「京都を世界で最もイノベーションが生まれる地域の一つにする」ことで京都工業会の価値を高めることを大きな目標として、会員企業の皆様とともに挑戦してまいります。

未来を切り拓くのは、常に人と技術であり、人財と科学技術が果たす役割はますます大きくなっています。京都工業会が、会員企業の皆様の知恵と経験を結集して「京都ならではの総合知」を生み出し、新たなイノベーションを生み出すエコシステムの中心となることで、京都から世界へ新たな価値を積極的に発信していきたいと考えています。

結びに、会員企業の皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げますとともに、今後とも京都工業会の活動に対して一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(株)島津製作所 会長

会長退任ご挨拶

顧問 村 尾 修



この度、去る6月10日に開催されました第58回通常総会をもちまして、京都工業会の会長を退任いたしました。

令和4（2022）年6月に会長を拝命して以来、2期4年にわたり伝統ある京都工業会の運営に携わる機会をいただきましたことは、私にとりまして大変光栄なことであり、また多くの学びと貴重な出会いに恵まれた4年間であります。

会長としての職責を無事に終えることができましたのも、副会長をはじめとする役員の皆様、会員企業の皆様、京都府、京都市ならびに関係機関の皆様、そして日々工業会活動を支援していただいた事務局の皆様のご支援、ご協力の賜物であり、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

私が会長に就任した令和4年は、新型コロナウイルス感染症による影響から社会経済活動が徐々に正常化へ向かい始めた時期でした。京都工業会においても、対面による交流や学びの機会をいかに取り戻していくかが大きな課題でした。

そうした中で印象深いのは、コロナ禍からの回復期に、京都の経済団体の中でもいち早く海外産業視察を再開できたことです。令和4年には南オーストラリアとシンガポールを訪問し、再生可能エネルギーや水素など、カーボンニュートラル社会の実現に向けた先進的な取組を視察しました。実際に現地を訪れ、世界の変化を肌で感じることで、京都企業の可能性や果たすべき役割について改めて考える貴重な機会となりました。

翌年のモロッコ視察は大地震直後でしたが、「ぜひ訪問いただきたい」というモロッコ大使館の声に背中を押され、有志の方々から集めた義援金を携えて訪問し、アフリカの玄関口としての発展を実感する貴重な機会となりました。海外産業視察は単なる視察ではなく、参加者同士が交流を深め、世界の変化を共有しながら、新たな視点や気づきを得る貴重な場であったと感じています。

一方、在任中には約15年ぶりとなる「中長期活動基本方針」の全面改定を行いました。VUCAの時代と呼ばれる先行き不透明な社会環境の中で、イノベーショ

ン人材の育成や環境課題への対応など、これからの京都工業会に求められる役割を改めて整理することができたと考えています。

このような取組の中で、私が4年間を通じて最も大切にしてきたのは、「モノづくりは人づくり」という考え方です。どれほど優れた技術や設備があっても、それを活かし、新たな価値を創造するのは人です。企業の持続的な成長も、地域産業の発展も、結局は人材の育成なくして実現できません。

京都工業会が長年にわたり力を注いできた京都高等技術・経営学院は、その象徴的な取組です。電子システム研究科は45回、メカトロニクス研究科は42回を数え、多くの技術者や経営人材を育成してきました。

実は私自身も、この両研究科の第1期生として学ぶ機会をいただきました。その後も業務革新研究会や経営管理懇話会など様々な活動に参加させていただきましたが、今振り返りますと、私自身、工業会に育てていただいたと言っても過言ではありません。

そこで得た知識や経験はもちろんですが、何よりも大きな財産となっているのは、共に学んだ仲間とのつながりです。企業や業種の垣根を越えて築かれた人的ネットワークは、今なお続く貴重なご縁であり、私自身の大きな支えとなっています。

私は、こうした人と人とのつながりこそが京都工業会の大きな価値の一つであると考えています。共に学んだ仲間との横のつながり、そして企業の中で受け継がれていく縦のつながりが重なり合うことで、京都の産業界全体を支える強固な基盤が形成されるように思います。

京都工業会は、目的とするところの一丁目一番地である人材育成を通じて企業を育て、企業を通じて京都の産業を支えてきました。この価値は今後も変わることなく、むしろ変化の激しい時代だからこそ、さらに重要になっていくものと確信しています。

京都工業会は来年度、設立70周年という大きな節目を迎えます。今後は上田新会長のリーダーシップのもと、これまで築いてきた伝統と革新を融合し、さらに魅力ある組織として会員企業と地域経済の発展に寄与されることを心より祈念しております。

（株）ジーエス・ユアサ コーポレーション 会長）

副会長就任ご挨拶



副会長 阿部 貴志

このたび、京都工業会の副会長を拝命いたしました阿部貴志でございます。

長い歴史と伝統を有し、京都の産業界の発展に大きく貢献されてきた京都工業会において、このような重責を担わせていただくことを大変光栄に感じるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。微力ではございますが、上田会長をはじめ役員の皆様、会員企業の皆様と力を合わせ、京都産業界のさらなる発展に貢献してまいりたいと考えております。

現在、私たちを取り巻く事業環境は、大きな転換期を迎えています。地政学リスクの高まりやサプライチェーンの変化、脱炭素社会への対応、デジタル技術・AIの急速な進展など、企業経営に求められる視点やスピードは、これまで以上に高度かつ複雑なものとなっています。

一方で、こうした変化は、新たな成長機会でもあると感じています。とりわけ、カーボンニュートラルの実現やエネルギーの安定供給、電動化社会への移行といった世界的な潮流の中で、日本のものづくりが果たす役割は、今後ますます大きくなるものと考えています。技術力や品質力に加え、変化に柔軟に対応する力、そして社会課題の解決に挑戦する姿勢が、企業の持続的な成長に不可欠であると感じています。

京都には、長い歴史の中で培われた伝統や価値観を大切にしながらも、常に新しい技術や事業に挑戦し続けてきた企業が数多く存在しています。また、大学や研究機関、行政機関などとの距離も近く、産学官が連携しながら新たな価値を創出できる土壤があります。こうした京都ならではの強みは、今後の日本の産業競争力を支える大きな力になると考えています。

その中で京都工業会は、企業間交流、人材育成、技術研鑽などを通じ、京都の産業界を支える重要な役割を果たしてこられました。特に、次世代を担う人材の育成や、企業の枠を超えたネットワークづくりは、これからの時代においてさらに重要性を増していくものと思います。私自身も、会員企業の皆様との対話や交流を大切にしながら、現場感覚を持って活動に取り組んでまいりたいと考えております。

京都工業会のさらなる発展と、京都産業界の持続的な成長に少しでも貢献できますよう努めてまいりますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 社長)



副会長 増山 晃章

この度、副会長として京都工業会のお手伝いをさせて頂くことになりました。京都の製造業にとって本会の存在は非常に大きく、まさに“京都のモノづくり”を貫く原動力になっていると常々考えております。業界発展のため、微力ながら精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

さて、戦後教育を受けた我々は、日本が世界最古の国であるということあまり知りません。GHQ主導の教科書に敗戦国である日本が「我国は世界最古の国である」と自国を称える表現をすることにクレームがついたからです。建国記念日の2月11日は今から約2700年前に初代神武天皇が即位した日を起源とされており、天皇は現在の第126代天皇まで国の象徴として受け継がれています。因みに中国やエジプトは建国75年前後、アメリカは250年、イギリスは319年、世界で2番目に古い国はデンマークで約1000年とされています。よく混同されますが文明の歴史と国の歴史は違うのです。

国に革命が起こるとそれまでの精神文化は破壊され、新しい思想や精神文化にリセットされます。しかし、日本は武将による勢力争いこそあれ、国がリセットされるような革命は起こっておらず、「万物に神が宿りすべてのものに感謝する、おかげさま」の精神や「他人に迷惑をかけない」、「おもてなし・思いやり」といった利他的な精神文化が延々と引き継がれており、インバウンド客への魅力ともなっています。

モノづくりの歴史は「まずは自分が使うモノ」を作ることから始まり、やがて他人が使うものを作る、“商い”へと進化してゆきます。京都には1100年に亘り、日本人の心の拠り所である天皇の住いが置かれ、都人たちは親しみを込めて「天皇さん」と呼び、「綺麗な着物を着せてあげたい、美しい器で美味しいものを食べてもらいたい、面白い本や絵を届けてあげたい」という利他的な思いを持っていました。そして皆が協力し、様々な工夫を重ね、ものづくりの文化へと発展してゆきます。やがてそれらは織物産業となり、焼物はセラミックとなり、本や絵から発生した印刷技術は今や半導体製造に欠かせない技術となり、現在の京都の産業を支えています。

このように京都には1200年にわたる日本の精神文化が息づき、それを礎にしたモノづくりの力があります。そんな京都のモノづくりの力を私は“京都力”と呼んでいます。

引き続き、京都工業会が“京都力”を発展させる大きな役割となるよう、皆様のお力添えをお願い致します。就任のご挨拶とさせていただきます。

(星和電機(株) 会長)

6月10日 通常総会終了後、令和8年度優秀従業員定例表彰を挙げる。

まず、受賞者全員の名前を読み上げ、受賞者69名(55社)を代表して、芝本 敦氏(日工電子工業(株))へ村尾修会長から表彰状と記念品が授与された。その後、会長がお祝いの言葉を述べた。

続いて、来賓の京都府企画理事兼商工労働観光部長・岡本孝樹氏、京都市産業・文化融合戦略監兼産業観光局長・草木 大氏から祝辞をいただいた。

その後、本会正副会長、来賓各位とともに記念撮影を行い、同表彰式を終えた。



表彰された69名の方々

受賞者名

(以下敬称略)

朝日レントゲン工業(株)	田村 淑里	島津システムソリューションズ(株)	黒川 泰和	ニチコン(株)	山本 季邦
(株)イシダ	谷口 友	(株)島津製作所	佐竹 傑	日工電子工業(株)	芝本 敦
一志(株)	坂根 寛紀	(株)島津製作所	徳井 美枝	(株)日進PREVO	藤本 博之
NKE(株)	東 知行	島津トラステック(株)	竹内 成幸	(株)日進ProSOL	山形 宏文
オムロンソーシャルソリューションズ(株)	兼子 工治	島津トラステック(株)	谷口 聡	日新電機(株)	瓦井 英治
オムロンソーシャルソリューションズ(株)	渡 浩洋	(株)島津ビジネスシステムズ	上田 浩史	日新電機(株)	三井 健司
尾池工業(株)	井上 雅裕	島津プレジジョンテクノロジー(株)	須藤 哲矢	(株)パックス・サワダ	井上 幸与
大阪ガスネットワーク(株)	植田 佳子	島津プレジジョンテクノロジー(株)	塚本 秀雄	福田金属箔粉工業(株)	荒木 孝行
大阪ガスマーケティング(株)	北村 弘孝	(株)SCREENファインテックソリューションズ	池田 文彦	福田金属箔粉工業(株)	古川 幸二
(株)カシフジ	足達 豊	須河車体(株)	中山 太一	(株)平安製作所	野崎 源守
(株)菊水製作所	柳生 大樹	菅原精機(株)	原 喜則	(株)堀場製作所	黒住 拓司
(株)京都環境保全公社	勝浦 紀行	星和電機(株)	岩根 弘和	三菱自動車工業(株)京都製作所	田中 和夫
京都機械工具(株)	岡田 重幸	星和電機(株)	林 堅太郎	三菱自動車工業(株)京都製作所	永井 良明
京都精工電機(株)	村上 美奈	(株)積進	森 哲也	(株)宮木電機製作所	井本 清隆
(株)クリスタル光学	近藤 弘嗣	(株)たけびし	奥野 泰史	村田機械(株)	平川 雅三
クロイ電機(株)	岩本久美子	太陽機械工業(株)	野瀬 秀人	ムラテックフロンティア(株)	永井 隆
月桂冠(株)	鈴木 邦弘	(株)大日本科研	大槻 友彦	メテック(株)	宇野 文裕
(株)工進	久保村 歩	トクデン(株)	安倍 真里	(株)モリタ製作所	齋藤 真里
サンコー(株)	船岡 幹大	(株)トミナガ	川村 知嗣	(株)モリタ製作所	重吉美由紀
(株)最上インクス	好永 孝志	TOWA(株)	礪部 英樹	YUSHIN(株)	今井 義隆
(株)佐藤製作所	吉田 直敏	TOWA(株)	横山 昌行	YUSHIN(株)	平川 武司
(株)GSユアサ	鯉江 信博	(株)藤堂製作所	坂田 秀雄	(株)ロジスネクスト	佐藤 泰巳
(株)ジーエス・ユアサテクノロジー	西山 隆	ニチコン(株)	黒田 英敏	(株)ロジスネクスト	竹内 良彰

(企業名50音順)

アート思考によるモノづくりの考え方セミナー

新規事業や新製品開発において、論理思考やデザイン思考を駆使しても革新的で斬新な企画が出てこないことがある。アート思考は、自らの興味・関心を起点に、既存概念に捕らわれず、ゼロからイチを生み出すイノベーションの原動力となる。アート思考を学ぶだけでなく、作品制作を通じて既存概念から超越し思考が飛躍する瞬間を体験できるセミナーを2回シリーズで開催する。

第1回 日 時：9月8日（火）13：30～16：30

テーマ：インプットDay「アート思考を学ぶ」

中間日 日 時：9月9日～10月18日

テーマ：日常の中での課題リサーチと作品制作
オンラインによる個別アドバイス

第2回 日 時：10月19日（月）13：30～16：30

テーマ：アウトプットDay「既存概念を超える」
作品発表とビジネスへの実装

会 場：京都工業会 会議室

定 員：20名限定

講 師：E&K Associates代表 長谷川 一英 氏

参加費（全2回・税込）：・会員企業 13,200円
・会員外企業 19,800円

医工連携セミナー2026

モノづくり企業にとって医療機器は魅力的な分野である。一方で事業に繋げるためには幾つもの障壁を突破するための正しい知識・情報に基づく戦略と頼りになるネットワークの活用が必要となる。

本セミナーでは、理解しておくべき基礎事項と自社の技術を活かせる臨床現場のニーズの探し方や、支援を受けることができる仕組み等に関して4回にわたり学ぶ。

第1回 日 時：10月5日（月）15:00～17:00

会 場：京都工業会 会議室

テーマ：医療機器開発の概論（必要な知識の習得）

講 師：京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構

第2回 日 時：11月24日（火）15:00～17:00

会 場：京都大学医学部附属病院

テーマ：臨床現場のニーズ紹介

講 師：京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構

第3回 日 時：12月以降を予定

テーマ：工学的視点からの医工連携（企画中）

第4回 日 時：1月以降を予定

テーマ：医療機器メーカーにおける医工連携（企画中）

定 員：20名限定

参加費（4回分）：有料

※詳細については8月頃本会HPに掲載予定。

PFAS・化学物質対策支援セミナー

米国TSCAや欧州REACH規則の改正、中国の新規化学物質環境管理登記弁法^{*1)}の施行など、世界各国で規制強化が進んでいる。また、日本では令和8年4月に水道法が改正され、特定PFAS基準値^{*2)}が暫定目標値から正式な水質基準へ移行した。

本セミナーでは、PFASをはじめとする化学物質をテーマに、モノづくりの中堅・中小企業に役立つ情報を提供する。

関連法規や製品安全シート（SDS）などの基礎知識、リスクアセスメントに基づいた事業者による自律的な化学物質管理、国内外の最新規制動向について解説する。

さらに、水質基準にまつわる話題として、水処理技術の最新情報も紹介する。

*1) 通称：中国版REACH規則

*2) PFOSとPFOAの合算値

日 時：令和8年9月28日（月）14：00～16：30

会 場：京都工業会 会議室・オンライン併用

内 容（予定）：

講演1 「化学物質管理について」（仮題）

講師：谷口労務・安全管理事務所 谷口 誠 氏

講演2 「欧米のPFAS規制動向」（仮題）

講師：(株)SCREENホールディングス

講演3 「水処理技術の最新情報」（仮題）

講師：京都市 上下水道局 技術監理室 水質管理センター

小さく始める「匠技デジタル伝承」推進セミナー

製造現場で培われてきた職人の熟練技術は、企業にとって大きな財産である。一方で、技能の継承が個人の経験や勘に依存している場合、退職や異動により技術が失われるリスクがある。

本セミナーでは、製造現場で培われてきた職人の勘・コツ・判断基準である、「どこを見るのか」「なぜその判断をするのか」等といった暗黙知を整理し、動画・写真・作業手順書・チェックリスト等のデジタルツールを活用して見える化し、次世代へ伝承する具体的な方法を学ぶ。

参加企業が自社の課題を整理し、明日から取り組める「小さく始めるロードマップ」を作成することを目的に、開催する。

時 期：令和8年11月（予定）

時 間：2～3時間程度

会 場：京都工業会 会議室・オンライン併用

対 象：生産部門長及び同位に準ずる管理職

※内容が一部変更される場合がある。

予 告

中堅・中小企業のための
人事評価制度導入・運用支援セミナー

人事評価制度は、「公平性」「社員のモチベーション向上」「企業の持続的成長」等を実現する仕組みとして導入を進める企業が増えている。

一方で、中堅・中小企業ではリソース不足やコスト等の制約により、導入が進まない、また導入後も運用面で課題を抱える企業が少なくない。

本セミナーでは、人事評価制度の導入・運用・定着のためのポイントの解説や事例共有などを通じ、中堅・中小企業における制度運用の支援を行う。

日 時：令和8年8月24日（月）13：30～16：30

会 場：京都工業会 会議室

対 象：中堅・中小企業の経営者・人事担当者等

内 容（予定）：

【第1部】・講演「人事評価制度導入 成功のポイント」
・ワークショップ

【第2部】・講演「運用・定着のポイント」
・ワークショップ

女性活躍推進部門懇話会

女性活躍推進に取り組むモノづくり企業が集い、他社の事例紹介や意見交換を通じて、自社の課題整理や取組のヒントを得る場である。

今年度は、「女性社員のキャリア形成・意識醸成」をテーマに、評価・登用への納得感、キャリア継続、ロールモデル形成などに関して企業事例から学ぶ。

時 期：令和8年10月～令和9年2月（全4回）

時 間：各回3時間程度

会 場：京都工業会 会議室（企業訪問の場合あり）

対 象：人事・総務部門の女性管理職及びその候補者

参加費（全4回・税込）：・会員企業 30,800円
・会員外企業 50,600円

※詳細については、令和8年8月頃本会HPに掲載予定。

※内容は変更になる場合がある。

〈昨年度参加者の声〉

- ・他社の事例紹介が参考になった。
- ・参加企業との意見交換を通じて、自社の課題を整理することができた。
- ・自社で実践するためのヒントや新たな視点を得ることができた。
- ・他社にも共通する課題があることが分かり、有意義な交流の機会となった。

サイバーセキュリティ対策セミナー2026

AIの悪用によりサイバー攻撃は増々巧妙化・悪質化し、事業継続を脅かす重大な経営課題である。加えて、サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度導入に関する備えも必要である。本セミナーでは、国内外のサイバーセキュリティに関する最新情報と企業が取るべき対策を知り、社内での取組に活かせるセミナーを開催する。

日 時：10月16日（金）14：00～16：00

会 場：京都工業会 会議室・オンライン併用

対 象：京都工業会会員、一般企業

内 容：

講演1 「サイバー攻撃の世界での実態とモノづくり企業での取るべき対策（仮題）」

講 師 独立行政法人 情報処理推進機構
産業サイバーセキュリティセンター
調査分析部サイバーインシデント調査室
室長 中山 顕 氏

講演2 「サイバー犯罪の現状と対策」

講 師 京都府警察サイバー対策本部
サイバー企画課 官民連携推進係
警部補 吉田 卓司 氏

参加費：無料

BCP・危機管理研究会

【その時、あなたの会社は動けますか？】

自然災害、技術流出、サイバー攻撃——。本研究会では、製造業を取り巻く様々なリスクを題材に、自社の危機管理や事業継続について考える。

行政機関や企業の講演・事例紹介、意見交換等を通じて、自社に潜むリスクや見落としがちな視点に気づき、今後の備えや対応を考える機会とする。

特に中堅・中小企業における危機管理実践に役立つ内容である。

時 期：令和8年9月～12月（全3回）

時 間：各回2時間30分～3時間程度（予定）

会 場：京都工業会 会議室

対 象：中堅・中小企業経営者、管理職、総務・危機管理担当者等

内 容：・BCP・危機管理

- ・技術流出・サイバーリスク
- ・経済安全保障・海外危機管理

参加費（全3回・税込）：・会員企業 19,800円
・会員外企業 29,700円

申込締切：令和8年8月31日（月）

※詳細・お申込みは本会HPを参照のこと。

※内容は変更になる場合がある。



品質保証で航空宇宙産業を支える ——小さくてもキラリと輝く企業をめざして——

(株)寺内製作所 代表取締役社長 植月 邦彦 氏

■ 創業

大正2(1913)年、大阪砲兵工廠(軍需工場)で働いた経験のある創業者の寺内梅次郎が仲間2人と、当時使われていたランプやガス灯、扇風機用のネジを、東山三条辺りで作りはじめたのが始まりです。



■ 航空機産業への参入

第一次世界大戦の頃に海軍との取引を開始し、大正11(1922)年には海軍の指定工場に指名されました。一般のネジよりも精度が必要な航空機用ネジが製造できたため、昭和13(1938)年に陸軍からも航空機用部品の承認を得て、供給を開始しました。当時は航空機用ネジ専業ではなく、戦争の激化とともに、軍の管理下で様々な部品を製造しました。

終戦から10年が経過した昭和30(1955)年からは、防衛庁の登録業者として航空機関係の部品を納入しており、航空機産業に携わって早90年近くになります。

■ 航空宇宙分野への集中

当社にとって大きな転換点となったのは、平成14(2002)年、2代前の社長時代でした。当時は様々な事業分野を手掛けていましたが、将来の成長性や当社の技術的な強み、資本や人材の活用を総合的に見極めた結果、航空宇宙分野に経営資源を集中する決断をしました。このことで、会社の進むべき方向が明確になりました。

■ 社長就任までの歩み

私は12代目の社長です。歴代社長の多くは社内から昇格しており、私もその一人です。私が社長に就任したのは、コロナ禍で航空業界全体が大きな打撃を受けていた令和2(2020)年でした。しかし、航空宇宙分野に特化する方針は決まっていたので、会社が目指す方向性に迷いはなく、私の役割はその路線を着実に継続し、発展させることでした。

私自身は平成7(1995)年の入社当初から航空宇宙事業に携わっていたわけではなく、建設機械向けねじの営業担当としてキャリアをスタートしました。航空宇宙分野への事業集中が決まったタイミングで、この事業からの撤退も決まり、最後には営業担当が私一人となり、多くの課題を抱えながら事業撤退に取り組んだ経験は、今でも忘れられません。

その後、生産管理部門へ異動し、製造部、品質保証部など、モノづくりに関わるほぼすべての部門を経験できたことは、経営者として大きな財産になっています。

■ 「造る」よりも「証明する」ことが重要

当社の最大の強みは、航空機向け部品の一貫生産体制と品質保証体制です。お客様から依頼された製品を、完成品として納品しています。そのため機械加工だけでなく、熱処理、非破壊検査、各種試験、品質保証まで全ての責任を持たなければなりません。一部の工程は協力会社の力を借りていますが、単に外注するのではなく、当社は発注した工程を十分理解し、品質を管理・保証する技術力を有しています。重要なのは、「どのような工程を経て製造されたかを証明できること」です。

そのためには、使用した材料、加工工程、検査情報、適用した規格などの履歴をすべて追跡できることが求められます。つまり、航空機部品における品質とは、その製品が適切な工程を経て製造されたことを証明する仕組み全体を指しているのです。

■ 経営理念が企業文化の土台

当社は経営理念を大切にしています。社員全員が理念カードを携帯し、朝礼で唱和を行っています。また、改善活動の指針となる「改善十二箇条」も共有しています。こうした取組は単なる形式ではなく、判断に迷ったときや意見が対立する場面における共通の価値観として機能しています。

■ 次世代へバトンをつなぐために

社長として最も重要な使命は、会社を守り、次の世代へ確実に引き継ぐことだと考えています。利益を確保し、従業員の生活を守り、会社を存続させる。そして次世代の経営者に健全な形でバトンを渡すことが私の責務です。

一方で、航空宇宙産業に携わる企業として、日本の防衛や技術発展を支える役割も果たしていかなければなりません。航空宇宙産業は夢のある世界ですが、その夢を支えているのは派手な技術や華やかな成果だけではありません。日々積み重ねられる品質保証活動こそが、その根幹を支えています。だからこそ私たちは、品質への誇りを持ち続けたいと思っています。そして社員一人ひとりが航空宇宙産業を支える使命感を持ちながら、社会に貢献できる企業であり続けたいと考えています。

■ PROFILE ■

創 業：1913年(大正2年) 設 立：1933年(昭和8年)
資本金：5,853万円 社 員：164名
所在地：京都市伏見区深草芳永町666
取扱品目：航空機・ロケット・宇宙機器用部品、
原子力・火力発電用部品

白鷺クラブ活動報告

創立50周年を祝う！



4月9日夕刻、フォーチュンガーデン京都にて、白鷺クラブ創立50周年記念式典を開催した。当日は来賓として、親会である京都工業会から村尾 修会長、上田 輝久副会長、西村 陽副会長、材木 正己副会長、本永 治彦専務理事を迎え、白鷺クラブおよびOB会である鳶の会の会員も多数出席した。

式典では、まず白鷺クラブ代表幹事の山岡 靖尚氏が式辞を述べた。山岡氏は、白鷺クラブの歴史に培われた価値と意義の重要性に触れるとともに、クラブ名の由来である白鷺になぞらえ、次のように語った。「日本の景観や文化に親しまれてきた白鷺が、気高く大空へ羽ばたくように、多くのベンチャー企業を生み出してきた京都の地から、メンバー一人ひとりが未来へ大きく飛躍することを願う。」

続いて、京都工業会の村尾会長が祝辞を述べた。

式典終了後は祝宴に移り、京都工業会常任理事であり鳶の会会長でもある堀 英二郎氏の乾杯の発声により開宴した。参加者は和やかに歓談し、白鷺クラブ創立50周年という節目、いわば“満50歳”を盛大に祝った。

尚、同クラブでは記念事業の一環として「50周年記念誌」をデジタルで発刊した。



記念誌

令和8年3月末日現在の会員数

白鷺クラブ：36名 鳶の会：31名

同日開催の総会にて令和8年度役員が決定

〈令和8年度役員〉



代表幹事：山岡 靖尚氏
(山岡製作所・社長)



代表幹事：河井 領氏
(京和ブロンズ・社長)

幹事 中本 宏樹 氏 (福知山重工業・社長)
佐藤 一成 氏 (エンゼル工業・社長)
松井 大介 氏 (阪村エンジニアリング・社長)

京都工業クラブ

第708回 京都工業クラブ

4/14

中国経済・産業の最新事情 ～「内巻」式競争と日本への影響～

神戸大学大学院 経済学研究科 教授 梶谷 懐 氏

中国は、「中国製造2025」などの産業政策により製造強国化を推進し、EVや車載バッテリーを中心とする製造業の競争力が大幅に向上した。

更に需要拡大型の政策等によって産業発展が促進される一方、企業参入の急増により価格競争が激化し「内巻」式と呼ばれる過当競争や過剰生産が問題となっている。

強力な産業政策で成長を維持しつつも、中国経済の課題は消費不足の解消と過剰生産の是正にあり、その動向は日本の産業政策や通商戦略にも大きな影響を与える。

また、日本の少子高齢化や長期停滞の経験は、中国の今後の政策運営にとって重要な参考例となる。



第709回 京都工業クラブ

5/18

新政権の運営と 今後の外交・安全保障・国際情勢と日本への影響

同志社大学 法学部政治学科 教授 村田 晃嗣 氏

高市早苗首相の誕生は、3つの大きな意味がある。第一に日本初の女性首相として政治史上の転換点であること、第二に世襲ではない出自から首相となったことで、日本の民主主義が開かれていることを示したこと、第三に東京中心・世襲中心という自民党の構造とは異なる存在であること、である。

台湾有事発言を巡る日中関係の緊張については、米中関係の安定化を背景に中国は対日強硬姿勢を強めており、日本の世論は分裂せず、首相を支えるべきである。

長期的には、日本は人口減少と相対的国力低下に直面しており、対米関係や対中戦略を含め、より自立的で現実的な国家戦略が不可欠である。



第710回 京都工業クラブ

6/12

危機の中東情勢を読み解く ～イラン情勢と地域秩序のゆくえ～

立命館大学 国際関係学部 教授/中東・イスラーム研究センター長 末近 浩太 氏

令和5年(2023年)のガザ危機を契機に中東の勢力構図は大きく変化し、米国・イスラエルはイランに対し「力による現状変更」を進めた。

イランは核開発や、周辺国・武装勢力を巻き込みながら勢力均衡を図ってきたが、連携勢力は弱体化し、イランは孤立を深めている。

中東紛争は、国内・地域・国際の三層が絡み合う「同心円構造」により拡大・長期化し、明確な勝者のない「停滞した紛争」に至っている。

現在、湾岸諸国の戦略転換や中国の影響拡大など国際秩序の再編が進み、世界は高リスクで不安定な時代を迎え、日本も戦略の再構築が必要である。



7/4 京都高等技術・経営学院 「第46回電子システム研究科」「第43回メカトロニクス研究科」開講

開講式

理論に基づく応用力強化と先端電子技術を習得する第46回電子システム研究科（12名）及び機械と電子の接点を理解・習得する第43回メカトロニクス研究科（12名）の合同開講式を挙行了した。

今日の激しい技術革新に対応する技術人材の育成が企業の持続的発展に向けて何よりも求められている。

幅広く、それでいて力量があり、加えて実践的対応力のある人材育成を図ることを目的に、京都府の支援と府内の大学及び産業界の協力のもと、来年1月下旬まで行われる長期研修として定着し、京都のモノづくりを支える人材を数多く輩出している。

当日は、京都高等技術・経営学院長（本会副会長）西村 陽氏の式辞に加え、京都府中小企業技術センター副所長 中西 望 氏からお祝いと激励の言葉が送られ、長期研修がスタートした。



西村学院長 式辞



中西氏 祝辞



研修生一同

京都環境管理研究会

環境対応の関係者に役立つ情報収集や研鑽、また会員相互のネットワークを拡げる場として活用いただくことを目的に例会を年7回開催。

有識者の講演と先進企業の取組事例紹介や施設見学を通じて、気候変動適応策、エネルギー管理（省エネ、再エネ導入）、資源循環、生物多様性等のテーマについて学ぶ。

第1回例会

開催日：5月29日

会場：京都工業会会議室（オンライン併用）

参加者：30名

【右記の京都府による企業支援等のお問い合わせ先】

総合政策環境部 脱炭素社会推進課

TEL：075-414-4708

農林水産部 林業振興課

TEL：075-414-5016

講演1「京都府地球温暖化対策条例等の改正について」

京都府 総合政策環境部 脱炭素社会推進課 参事 岡山 祥平 氏

京都府の温暖化対策の現状とエネルギー情勢及び京都府地球温暖化対策条例改正ポイントについて解説がされた。

また、再エネ導入促進事業などの中小企業向け支援策についても説明があった。



講演2「森林由来 J-クレジットについて」

京都府 農林水産部 林業振興課 森林政策・流通係 主幹兼係長 佐藤 芳郎 氏

昨年度から販売している京都府有林 J-クレジットの解説があった。

クレジットの購入は中小企業でも取り組みやすく、温対法報告やCSR活動、環境配慮商品の開発などに活用できる。



知的財産権研究会

第2回例会

開催日：6月15日

会場：関西大学 千里山キャンパス

参加者：11名

知財センター長兼環境都市工学部教授 石川敏之氏と研究推進・社会連携事務局 次長 柴田哲也氏から「関西大学における産学連携の取組等について」と題し、出願件数等の実績や知財の取扱い、不実

施補償などについて紹介があった。

メンバーからは共同研究が多い分野について、共同研究した場合の契約内容と契約金

額の算定方法、発明者への還元制度など活発な質疑応答が交わされた。

その後石川教授の研究室を見学し、研究内容の紹介や橋の強度を測定する機械などの説明を受けた。



質疑懇談



橋の強度を測定する機械



石川教授の研究室見学



石川教授の講演

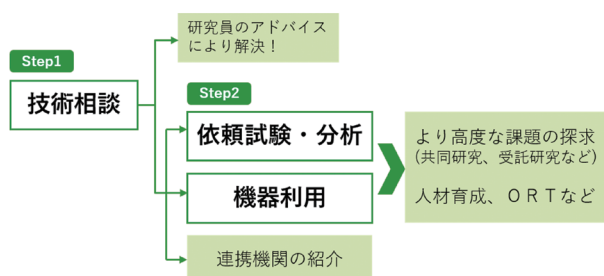


その課題、相談できます！ —モノづくり企業のための解決の糸口—

京都市産業技術研究所（産技研）は、ものづくり技術の「駆け込み寺」

「新製品の実用化を目指し耐久性を改善したい」、「クレームへの対応について相談したい」、「原料を環境負荷の少ないものに変えたい」など、技術的な困りごとがあれば、産技研へご相談ください。専門の研究員がお話を伺い、アドバイスや依頼試験・分析などの適切な解決方法をご提案します。

技術課題を解決に導くスキーム



Step1 まずはご相談ください

幅広い技術分野に対応しており、各分野の専門的な知識を持つ研究員がアドバイスをを行います。研究員には守秘義務がありますので、どうぞ安心してご相談ください。



◆産技研の主な対応分野はこちら



技術相談はこちらから

産技研総合相談窓口

TEL.075-326-6133

（受付時間：平日 8:30～12:00/13:00～17:00）

WEB お問い合わせフォーム



ご利用者様の声

- ・納入先から「基準値を超える有害元素が検出された」と指摘があり、操業停止になりました。産技研に分析を依頼したところ、基準値以下であることが判明し、納入先に理解を得て操業を再開することができ、数百万円の損失を回避することができました。（部材加工業）
- ・金属分析のために利用しました。産技研は単に分析結果を返されるのではなく、研究員の方と相談しながら試験を進めることができ、分析の原理や機器選択の背景、結果の詳細について詳しく教えていただけるのでとても助かっています。（電気機械業）

Step2 機器等による課題解決

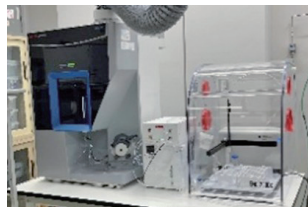


ご相談内容に応じて、研究員が試験、分析加工、デザイン制作等を実施し、適切な解決策をご提案いたします。お気軽にご相談ください。また、産技研では対応できない課題についても、連携している産業支援機関等をご紹介しますなど、課題解決に向けたお手伝いをいたします。

なお、ご利用料金をご依頼内容や試料の状態、企業規模等によって変わりますので、詳細はお問合せください。

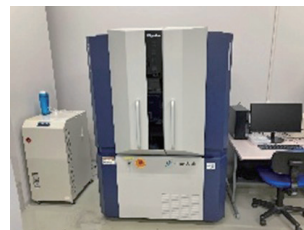
◆保有機器・設備検索はこちら

約130台の機器を保有しています。



全自動X線回折装置▶

◀ ICP 発光分光分析装置システム



◆試験分析のトリセツ「技術ソリューション集」



対応できる依頼試験・分析を分かりやすく紹介しています。製品の開発・改良、製造工程、品質管理等における課題解決のヒントに！

ニーズに応じたメニュー ～研究開発・人材育成～

より高度な課題を探究する共同研究・受託研究・簡易受託研究やものづくりの基本的な知識・技術を習得できるオーダーメイド型の人材育成事業であるORT (On the Research Training) など、お役に立てるメニューをご用意しております。ぜひお気軽にご相談ください。



地方独立行政法人
京都市産業技術研究所

〒600-8815

京都市下京区中堂寺栗田町91

京都リサーチパーク 9号館南棟

TEL.075-326-6100（代表）

FAX.075-326-6200



叙勲の栄

本年度の春の叙勲が発令され、本会関係では次の2名の方がその栄に輝かれました。
会員の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。



旭日重光章御受章
山口 悟郎氏
(京セラ(株) 会長)



旭日単光章御受章
市川 克一氏
(ミヤコテック(株) 会長)

ご訃報



中野 秀紀氏 (明光精器(株) 会長)
(平成21年5月～令和8年6月まで)
本会 監事
6月20日、ご逝去されました。



ゴルフ同好会 (KIG) だより

令和8年度第1回例会(第253回例会)結果

と き：令和8年6月3日

ところ：美奈木ゴルフ倶楽部

参加者：13名(内 シニア 4名)

優勝 伊藤 博一氏 (株)伊藤製作所)
準優勝 牧野 稔氏 (サンエー電機(株))
3位 櫻井 勲氏 (オリオン(株))
BG賞 牧野 稔氏 (サンエー電機(株))

新入会員ご紹介 (5月15日、第354回理事会で承認されました。)

	会社名	代表者名	所在地 (TEL・FAX)	取扱品目
正会員	FKK(株)	代表取締役社長 川田 一力	〒601-8399 京都市南区吉祥院堤外町11 TEL. 075-314-8760 FAX. 075-314-4167	エネルギー機器向けの燃焼 部品製造販売及びLED照 明器具の製造販売
賛助会員	アクセンチュア(株) 関西オフィス	執行役員 西日本エリア統括責任者 沖村 啓太	〒530-0005 大阪市北区中之島2-2-2大阪中之島ビル TEL. 06-6206-1750 FAX. 06-6206-1751	経営コンサルティング業
	(株)ベイカレント	執行役員 田中正 吾	〒530-0011 大阪市北区大深町5-54 グラングリーン大阪パークタワー TEL. 06-6530-6846 FAX. ー	コンサルティング業

日本を支える製造業の皆様へ

技術の力を、 経営の力へ

製造業の現場を知る人材が、
次のステージへ進むための
ビジネス教育がここにあります



次世代 技術リーダー企業のための プロフェッショナル・ビジネスプログラム

経営戦略・財務・イノベーションを学び
企業価値を創造するリーダーへ

経営戦略・技術マーケティング			
技術経営 イノベーション戦略 生成AI データサイエンス	財務・ファイナンス 事業投資判断・資金調達 資本政策・企業価値創造		
グローバル展開 海外市場展開 Supply Chain M&A	組織マネジメント 次世代技術リーダー育成 京都伝統産業企業 事業承継・DX		

本学は2004年4月の開校以来、約1,000名の卒業生が事業リーダーとして様々な分野で活躍しています。2023年10月には国際認証AMBAを取得し、世界標準のMBAプログラムを提供しています。AMBAから国際認証を受けているビジネススクールは世界で約300校、日本では本学を含め4校のみです。(2026年7月現在)



同志社ビジネススクール -DBS-
Doshisha Business School - 同志社大学大学院

京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学今出川校地(寒梅館)
地下鉄烏丸線 今出川駅 徒歩1分

2027 年度生募集中
各種イベント申込受付



京都工業会ニュース No.427

発行 令和8(2026)年7月24日
公益社団法人 京都工業会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター6階
TEL.075(353)0061 FAX.075(353)0065
URL: <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail: info@kyokogyo.or.jp

